

## ヌルデ (学名: *Rhus javanica* L.)

[ウルシ科 ウルシ属]



▲ヌルデの花



▲ヌルデの実を食べに来たツグミ

ヌルデは明るいところを好むので、川の周りや土砂が崩れたようなところで見られます。只見町では、只見川などの川の周辺、浅草岳や会津朝日岳の土砂が崩れた後などの比較的開けた場所で見られます。

只見では「ノデボウ」と呼ばれ、材は鎌の柄や棺に入れる杖、葉は乾燥させてお香の代用として使われていました。ヤマウルシやツタウルシの仲間で、肌が弱い人はかぶれることがあります。ヤマウルシと同じように羽状複葉ですが、羽状複葉の葉と葉の間に翼よくがあるのですぐに見分けることができます。(図. 1参照)

花は8月～9月に白くて小さな花がたくさん咲きます。秋には、紫黄色や白色の種子をつけその周りには白い結晶が付きます。これはリンゴ酸カルシウムというもので、舐めるとしょっぱく感じます。紅葉できれいに色づいた後、落葉しても実は梢に残ります。去年の冬にヌルデの実をツグミが食べていました。花のついた時期にヌルデを見つけておき、秋にしょっぱい実を味わってみるのもいいかもしれませんね。

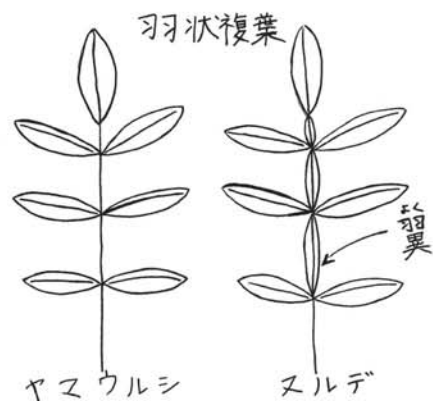


図. 1

企画展示

「只見町のブナの森  
-ブナの生態から利用まで-」

日 時：9月27日(日)まで開催中

只見町のブナの森林の構成や、ブナの生態、利用を紹介した企画展です

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています